

第三者意見



日本福祉大学 執行役員 国際福祉開発学部 教授

ち か み さ と し
千頭 聡 氏

「なごや環境大学」実行委員会常任幹事

環境省中部環境パートナーシップオフィス運営協議会座長

【専門分野】 専門は、地域環境計画、環境学習、持続可能な開発のための教育（ESD）など。自然科学と社会科学のアプローチの総合化を図りながら持続可能な開発の進め方について、実証的研究を行っている。国内では、参加型の地域開発、市民・事業者・行政の協働型まちづくりを支援し、国外では、アジアの発展途上地域を中心に、持続可能な地域社会づくりにかかわる現場重視の調査研究を行っている。

創業75周年を迎えた今年度の社会環境報告書も、経営トップの明確な方針と想いのもとで、ステークホルダーとの連携、従業員との対話に満ちた活動が的確にまとめられています。

人を大切にしながら続けてきた75年の積み重ね

社長メッセージ(7-8ページ)のなかで、創業75周年の積み重ねの上に立ち、改めてものづくり企業としての原点に立ち返ると述べられています。この考え方は、「世界とともにある企業」「社会から必要とされる企業」という社是をより具現化する上で非常に重要な姿勢だと感じます。サプライチェーンを通じた多様なステークホルダーの声にきちんと耳を傾けることと同時に、常に生産現場を大切に、「One for All, All for One」の精神に基づいて、世界45カ国29万人の従業員とその家族を大切にしてきたからこそ、75年にわたる社業の発展がなされたのではないかと思います。

また、会長は、「人材育成」こそ矢崎の歴史である(25-26ページ)と述べられています。長年にわたって取り組んできた矢崎企業文化研修やアドベンチャースクール、サマーキャンプは、まさにその証しです。今後、グローバルな人材育成プロジェクト(22ページ)などを通じて、人材を「人財」として育成されることに大きな期待を寄せたいと思います。

地域課題解決に向けた取り組み姿勢が明確(9-12ページ)

「タイで安全・快適な交通文化の実現をめざす」というタイトルのもとで、バンコクで最も大きな地域課題である交通渋滞の解決に向けた取り組みが特集されています。タイ、とくに首都バンコクにおける交通渋滞は大きな社会的損失と言える状況であり、その解消が強く求められています。交通事故の発生状況などを分析し、公的機関(運輸省)やステークホルダーの声や活動を丁寧に拾い上げた上で、デジタルタコグラフや通信ネットワークサービスの導入の必要性や効果などを記述し、喫緊の地域課題にどう対応していくのかを明確にした紙面構成および記事内容が高く評価できます。

自社製品(デジタルタコグラフなど)の普及を、交通事故

の大幅な減少という地域社会の課題解決にきちんと結びつけ、CSV(共有価値の創造)がさらに進展していくことを希望します。

人と組織の健康実現 — ウェルネスホイールに期待(22ページ)

人と組織の双方の健康実現をめざす「ウェルネス推進プロジェクト」が紹介されています。人と組織が相互に働きかけあうことによって、人も育ち、組織も活性化し、双方のウェルネスが相乗効果を発揮するはずで、矢崎のウェルネスホイールに示されている、精神的・身体的・環境的・社会的・職業的健康さという5つの側面は、個々には意識され、従前から取り組まれてきた項目だとは思いますが、人材育成を基軸とした矢崎のDNAを体現する新しい概念として、今後の展開を楽しみにしています。

グローバルな環境マネジメントが進む

矢崎環境取り組みプラン(28ページ)が示す環境重点項目のうち、過年度までに、ほとんどの項目ですでに目標値をクリアしています。とくに、CO₂排出量は、グローバルの売上高原単位が2010年度比でマイナス27.0%と、3割近い削減を達成していることが高く評価できます。これは、海外の生産現場での取り組みが進んでいることでもあり、グローバルに環境マネジメントが進行していることを示しています。32-34ページには、中国、インドネシア、フィリピン、タイでの取り組み事例が紹介されていますが、従業員自らが、取り組みの必要性を認識・理解し、一丸となって取り組んでいる様子が見え、また、全世界で241拠点においてISO14001の認証取得が行われていることも評価できます。

矢崎環境取り組みプランに記載されている多くの項目で、すでに目標を達成できていることから、今後、『矢崎地球環境憲章』に基づき、新たな中期目標設定が望まれます。

最後に

創業75周年を迎え、時代と地域の要請に応じて着実に発展してきた矢崎グループが80周年、さらにはその先をめざして、人と社会を大切にしつつ、グローバルにさらに発展されることを期待しています。